

「人」を最重要視しながら事業を拡大 変化に対応しながら次世代の成長に挑む

昭和 45 年に先代社長の宇山正徳氏によって設立されたウヤマ産業(株) (宇山嘉一代表取締役社長) は、祖業である輸送事業に留まらず、3PL トラック事業や流通加工サービス事業、太陽光発電事業などへと事業を拡大し、現在の姿に成長を遂げてきた。

43 歳で先代から会社を引き継いだ宇山社長は、事業を強化させていく一方で、「人」を最重要視し、人材育成にも力を入れてきた。宇山社長は同社のさらなる飛躍を見据えながら、次世代に事業を引き継ぐための準備も着々と進めている。



同社のトラックの前でガッツポーズを見せる宇山社長（左）と、同社の次世代を担う宇山貴土常務取締役（右）

■ 給与引き上げ・休日数拡大で定着率向上 YouTube 広告を活用し人材獲得に繋げる

ウヤマ産業(株)の歴史は、宇山社長の父親である宇山正徳氏が、昭和 39 年にトラック 5 台から事業を開始したことに始まる。現在は、建装材などを運ぶ輸送事業のほか、建装材の在庫管理・加工などを行う 3PL トラック事業、全国に支社・支店網をもつ企業の制服を扱う流通加工サービス事業、そして太陽光発電事業を手がけている。なお、輸送事業を担う輸送部は、野田市内に木野崎本社営業所を構えているほか、茨城県境町にある関東ロジスティクスセンターにも拠点を置いている。

同社における事故防止への取り組みをみると、同社では平成 24 年に ISO9001 を取得し、品質マネジメントシステムの継続的な改善に取り組むべく、毎月 1 回 ISO 委員会を開催し、事故防止対策を推進。本社営業所と関東ロジスティクスセンターの 2 か所で、ドライバーに対する指導を実施している。同社のトラックが搭載しているドライブレコーダーやデジタルタコグラフでは動態管理が可能で、ドライバーが急加速や急ブレーキなどを行うと営業所に通知が届く。同社ではその情報を基に映像を抽出し、ドライバーの指導に活用しているほか、点呼場でも同映像を映し出し、事故防止意識向上に努めている。

同社では、「物流の 2024 年問題」を見据えて、ドライバーの長時間労働改善への取り組みを進めてきた。長距離輸送においては、かつてはドライバーが荷物の積み込みを行った上で営業所を出発していたが、積込作業と輸送作業を分業制にして長時間労働を抑制。また、配送先を 2 か所までと定め、2 か所目の配送先は 1 か所目の配送先から 20km 圏内までとし、ドライバーの負担軽減に繋げている。さらに、九州や北海道など遠方への輸送に関しては鉄道コンテナ輸送に切り替えるなどの対応を図っている。一方で、同社の倉庫で建装材を積み込む際に、倉庫の屋根下のスペースが限られていたため、雨天の時には積み込みスペースが空くまで積込作業ができず、ドライバーが待たされていたこと

があった。そこで、同社では屋根を大型化し、屋根下のスペースを拡大。これにより、荷役作業を進めやすくなったとともに、荷待ち時間の解消に繋がった。

同社では、こうした取り組みを始めるにあたって、1 年半ほど前から荷主との交渉を実施。荷主の理解を得た上で、今年 4 月から取り組みをスタートさせている。

「荷主との交渉に際しては、宇山貴土常務取締役が直接荷主先に出向き、ドライバーの長時間労働改善への協力を要請するとともに、運賃の値上げ交渉を実施。交渉にあたっては当社で条件を提示した上で、『提示した条件を認めていただければ、今後輸送を継続することは難しい』と強く訴えました。『物流の 2024 年問題』に関する報道がなされていたこともあり、当社の訴えに対して、荷主からもある程度の理解をいただいています」(宇山社長)

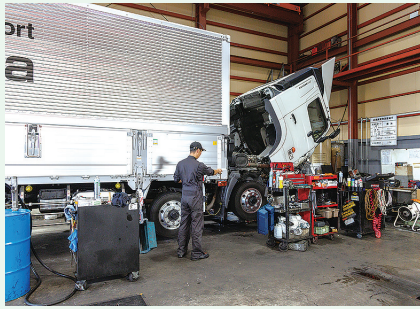
同社では、荷主との交渉で勝ち得た運賃の値上げ分については、賃金アップの形でドライバーに還元。昨年は 4 月と 10 月に、また今年も 4 月に昇給を実施している。

また、長距離輸送のさらなる効率化を図るため、同社では数年前から大型トラックのトレーラ化に踏み切っている。現在同社は 9 台のトレーラを保有しており、トレーラ化によって一度に多くの荷物を輸送できるようになるとともに、運行コストの削減にも繋がっている。

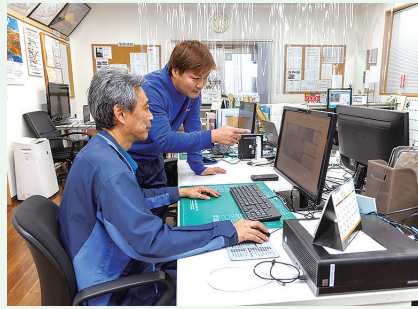
同社には現在 100 人ほどのドライバーが在籍しているが、ドライバーの定着率が高いのが同社の特徴となっている。近年では、ドライバーの従業員満足度向上を図るために休日数の拡充にも取り組んでおり、かつては年間休日数 104 日だったが、現在では年



宇山 嘉一
代表取締役社長



同社には整備認証工場があり、心を込めて自社の大切なトラックを整備している



点呼場ではドライブレコーダーで撮影したヒヤリ・ハット映像を見せ、ドライバーの事故防止意識向上を図る



「人」を大事にしてきた宇山社長。同社には従業員の笑顔があふれている

間 115 日にしている。ここ数年での賃金アップと休日数拡充が功を奏し、同社の待遇を魅力的と感じるドライバーが大きく増加していることも、定着率アップに貢献している。

同社では求人募集活動の実施に際して、インターネットの活用にも力を入れている。4 か月ほど前から、同社では求人募集用の動画広告（二次元コード）を YouTube 上で配信する取り組みを始めている。YouTube 広告では、広告の配信先を特定の地域に限定することができ、同社では本社営業所のある野田市と関東ロジスティクスセンターのある茨城県境町から 20km 圏内に絞って広告を配信している。また、求人情報専門の検索サイトも活用するなど、同社では紙媒体中心の求人募集活動からインターネットによる活動への移行を進めている。

さて、宇山社長は高等学校を卒業後、昭和 56 年に 18 歳で同社に入社。入社してから 5 年間はトラックに乗務していたが、当時倉庫事業が拡大傾向にあったことから、23 歳からの 5 年間は倉庫関係の仕事に就いていたという。その後、28 歳で部長に就任し、配車業務を行う一方で取引先との窓口業務にも就くなど、業界での経験を着実に積み重ねていった。

先代社長である正徳氏が 70 歳を迎え、正徳氏が当時専務取締役だった嘉一氏に対し、「そろそろ社長を代わろうか」と言ったのを機に、平成 18 年に嘉一氏は正徳氏に代わり、43 歳で同社の社長に就任した。嘉一氏が専務を務めていた頃から、正徳氏に代わって銀行との取引にも携わっていたこともあり、社長就任に際しては特に大変だという思いは抱けなかったというが、社長就任以降、責任の重さを次第に重く感じるようになったという。特に、社長就任以降リーマン・ショックに端を発する世界的な不況に見舞われたこともあり、経営資源となる資金や車両の確保に苦労したという。宇山社長は、「仕事を増やしても、それをこなせるだけの人材がいなければ事業を継続していくことができなくなる」との思いから、社内の組織固めを行った上で人材育成への取り組みに注力。社長に就任した 18 年当時、同社の従業員数は 170 人、車両

台数 70 台、売上高 20 億円弱という規模だったが、現在では従業員数は 100 人以上増加し、車両台数も 30 台ほど増加。また、売上高は約 37.7 億円にまで伸びるなど、順調に規模を拡大させていった。

宇山社長が経営面で大事にしているのは、「人」だという。同社の従業員に、「いつまでも働き続けることのできる会社」と感じてもらえるような会社にしていくために、宇山社長は従業員満足度向上を実現させるための取り組みを継続していった。一方で、経営者としては、経営資源である人やモノ、カネをいかに活用し、事業拡大に繋げていくかが大きなカギになってくると語る。

「変化の激しい時代を生き抜いていくためには、『次に伸びるのは何か』ということをしっかり押さえていく必要があります。それができなければ変化に乗り遅れてしまいかねません。目まぐるしく変化する取引先のニーズにしっかり対応していく、当社ならではの質の高いサービスを取引先に提供し続けていくために、経営者としては環境の変化を的確に捉えた上で、将来のあり方をしっかり考えていく必要があると考えています」(同)

輸送事業に端を発した同社であるが、現在では 3PL トランスポート事業や流通加工サービス事業などが伸長したこともあり、輸送事業の売上高は同社の売上高のうち半分程度になっているという。同社では今後も倉庫の増築なども進め、さらなる業容拡大を図っていきたいとしている。一方で、現在 61 歳の宇山社長は、4 年後に迎える 65 歳を目指して、事業を次世代に引き継ぐべく準備を進めているという。宇山常務取締役は現在 36 歳で、4 年後には 40 歳となる。宇山社長は同社の経営を率いながら、次世代に向けた同社の飛躍を期すべく、着々と準備を進めている。

求人用動画広告
(二次元コード)



ホットにゆーす

癒しを与えてくれる愛犬「りく」君

休日は愛犬との時間時間を大切に

宇山社長は以前から自宅で犬を飼っており、かつては 2 匹のポメラニアンを飼っていたという。現在は、ペットショップを訪れた際に一目惚れしたトイプードルの「りく」(オス)に夢中で、宇山社長が自宅に帰った際に、りくが走って出迎えてくれることに喜びを感じているという。

「愛犬のチャームポイントは目で、みていてとても癒されます。休みの日は、ドッグランや那須の別荘に一緒に行くなど、愛犬との時間を大切にしています」(同)



「りく」君
宇山社長と愛犬のトイプードル

企業プロフィール
ウヤマ産業株式会社
代表取締役社長 宇山 嘉一
本社 千葉県野田市目吹 2540-1
従業員 280 人(うちドライバー 100 人)
台数 100 台